第４号様式（要綱第６条関係）

2026 年度　第 3 回　藤沢市立片瀬小学校 学校運営協議会会議録

開催日時　2026 年　10 月 13 日（火）10 時～
場　所　　片瀬小学校１階　指導室

出席委員	松本　眞理子（会長・片瀬地区主任児童委員） 池田　亜津子（副会長・片瀬小学校校長） 長谷部　由起（片瀬地区青少年支援フォーラム） 長坂　訓子　（片瀬地区青少年支援フォーラム） 石渡　裕司　（元小学校長） 中原　孝太郎（東京都片瀬学園園長） 吉村　輝彦　（片瀬市民センター長） 星　　薫　　（片瀬市民センター職員） 杉下　由輝　（片瀬こま保存会事務局長） 服部　功志　（常立寺住職） 矢野　佳代子（片瀬地区 CSW） 以上 11 名出席（欠席 3 名） 傍聴人　なし
次第	１　開会 ２　会長あいさつ ３　議題 （１）学校の近況について （２）２学期の取り組みについて ・人的支援（学校公開日受付、運動会受付・パトロール、低学年懇談会時見守り、ミシンサポート　　他） ・ひだまり教室（学習支援、児童の居場所）　等 （３）その他　連絡事項 ４　閉会
	＊３（１）（２）について ・池田副会長より説明 ・長坂委員より１学期の支援について説明 （池田副会長）職員の体調不良によるお休みがあり、２クラスの担任不在を職員が協力して授業に入っている状況。教室から出てしまう児童や気持ちが不安定な児童が複数おり、対応に追われている。 （石渡委員）地域へ呼びかけをし、人が入る必要があるのではないか。学校が大変な状況であると、他の先生たちの体調が心配である。 （長坂委員）ミシンボランティアで授業に入っていると、だんだんと児童が地域協力者を頼るようになってきている。一緒にやってくれる安心感があるようだ。６年生は予定よりも早く作品が仕上げられる見込み。昨年からの成長を感じる。 （中原委員）継続してやってきた成果だと思う。

	（長坂委員）11 月、12 月の懇談会時見守りについて、手伝うメンバーは決まっている。ニーズに応じて今後の見守りを検討していく予定。 （松本会長）ひだまり教室について。教室に入れない児童が来るようになった。白百合中・高のボランティアも来てくれて、必要に応じて１対１の関わりをしている。 （服部委員）月曜日の居場所について。昨年来ていた子が、子の力で学校に戻っていることがある。一時期行ける場所として寺の居場所を続けていく予定。本人がどう過ごしたいのかを大切にしている。石渡委員にも協力をしていただいている。子の力の復活をさせることが必要。 夏休みは寺子屋食堂を開いた。20 名の定員がすぐにうまる。お寺のことや仏様の教えを伝える機会ともしている。「見えない力で生かされている」話など。 （池田副会長）フリースクールに通う児童も増えている。市からの補助金が保護者に出ることもあり、可能な限り面談をし、連携のありかたを確認する機会をつくっている。フリースクールはスクールにもよるが、多くが体験活動重視であり、学習をする時間は少ない様子。 （長坂委員）ミシンボランティアで児童と接していたとき、児童から「多様性」ということばが聞かれた。 （石渡委員）お寺の手伝いで、住職からの話は勉強になった。保護者には、自分の経験から、あきらめないでほしい、という話をしている。とまり木のような居場所は大切。学校にもあるとよいと思う。 （長谷部委員）子どもから、「いろいろな子がいる」と言われ、はっとすることがある。 （矢野委員）小学校だけでなく、その子がこれから生きていくことに目を向け、支え合って大きくなっていくことが大切だと思う。特性のある子について、こども家庭センターや児相と連携していくことは小中のつながりを考える上で必要だが、その後の支援を考えると年齢を問わない CSW ができることを考えていきたい。学校の先生たちは、教育の視点からの関わりとなるので、子の支援に関しての限界がある。 （松本会長）小学校での別室指導をしているところもあるが、中学校のように全校ではない。別室がないと登校できない子はどこへいったらよいのか。 （杉下委員）こまの大会では、順位をつけるし、一発勝負。失敗は失敗。失敗して勝てなくて泣く子もいるが、それもよい経験。多様性とわがままは違うと考える。 ＊３（３）その他 （星委員）ふれあいまつりの案内、「親子で防災を考えよう」チラシについて （吉村委員）自分が住んでいる地域のリスクについて考える機会としてほしい。 ４閉会

次回開催予定　2026 年　12 月 3 日（木）10 時～
場　所　　片瀬市民センター２階会議室